

科目名称：	保育内容「健康」の指導法	
担当者名：	小西 ふみ子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
乳幼児期は、生涯にわたって必要となる「健康な心と体の基盤を作る時期」である。この時期に関わる者は、全ての子どもが健康であってほしいと願うものである。自ら健康で安全な生活を作り出すために、友だちや保育者との温かい触れ合いの中で、のびのびと行動し自己を十分発揮し、乳幼児期にふさわしい多様な体験を通して体を動かすことの楽しさを味わい、生活に必要な習慣や態度を育てることが求められる。その時期にふさわしい関わりや保育内容を考え子どもの成長の支援ができるよう学んでほしい。		
授業の達成目標・到達目標		
保育内容「健康」の捉え方を理解し、子どもの成長発達を育むために保育者として必要な知識を身につける。また、乳幼児期に経験させたい様々な運動や遊びを学ぶことで、すべての経験は「健康」につながることを知る。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)					0
幼児教育DP (3)			60	40	100
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容》保育士	経験年数 40年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 「保育」とは 保育所や幼稚園における保育と家庭の子育てとどう違うのか	テキスト第1章 自身の幼児の姿、環境などを想起する	30分
第2回 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「健康」とは	保育所保育指針・幼稚園教育要領(持参)の「健康」の部分を読んでおく	30分
第3回 乳幼児期にふさわしい生活を学ぶ	生活しやすい保育環境を具体的に下調べすること	30分
第4回 乳幼児の心の安定を支える保育者の関係性を学ぶ(ディスカッション含む)	子どものどのような側面を理解したらいいか事例を元に自分の考えをまとめておく	30分
第5回 乳幼児期の生活リズムの発達をどう捉えるか(グループワーク)	規則正しい睡眠の大切さについて調べておく	30分
第6回 乳幼児期に培いたい「食を育む力」:食育はなぜ必要か(グループワーク)	食事に対する自身の体験を想起してまとめておく	30分
第7回 乳幼児期の活動と意欲の発達から「事故と安全」を学ぶ(グループワーク)	保育現場における事故のニュースを調べておく	30分
第8回 領域「健康」の環境構成と保育者の役割(グループワーク)	保育施設の写真を見ながら、子どもと周りの環境の影響力について考えてくる	30分
第9回 領域「健康」保育の実際① 保育者との信頼関係を結ぶ(ICTの活用)	子どもが遊びの中で「どこに面白さを感じているのか」事例から考えをまとめておく	30分
第10回 領域「健康」保育の実際② 進んで戸外で遊ぶには(ICTの活用)	子どもが体を動かして遊ぶ様々な戸外遊びを調べておくこと	30分
第11回 領域「健康」保育の実際③ 自分たちで生活の場を整えていくには(ICTの活用)	片付けやすい工夫や環境を考えておくこと	30分
第12回 領域「健康」保育の実際④ 危険や安全に関心を持つには(ICTの活用)	身近な危険について調べておくこと	30分
第13回 「健康」の指導上の留意点事故、危険、アレルギーへの対応	食物アレルギーを持つ子どもと一緒に食事をする際の配慮を調べておく	30分
第14回 子どもの遊び特性に配慮した園庭・遊具の構成(グループワーク)	大型遊具の楽しさと危険について調べておく	30分
第15回 まとめ レポート	これまでの資料を読み返し、レポート提出に備えること	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

**成績評価の方法・基準**

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。  
課題の提出、授業への積極的関与(40%)、レポート(60%)

**課題に対するフィードバック**

グループワークやレポートから課題や問題点をコメントシートでフィードバックする 最終課題については希望者に返却する

**教科書・参考書**

教科書:「最新保育講座 保育内容「健康」」(河邊貴子・柴崎正行・杉原隆編著、ミネルヴァ書房)  
参考書:「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「事例で学ぶ保育内容領域「健康」」(無藤 隆監修 倉持清美 萌文書林)